

子どももおとなも ゆとり広がる 学童保育に

— 子どもが声を聴かれ、子どもたちがつくる生活の場に —

学年のちがう仲間と
いつもの日々がよいんだよな～



◇切実なねがい

- ・1～6年生まで、学童保育が必要なすべての子どもが入所できるよう
- ・安心安全で、子ども自身が通いたい学童保育であってほしい

◇子どもの権利条約・放課後児童クラブ運営指針にそった学童保育であってほしい

◎放課後児童クラブ運営指針 より

どこの学童保育も子どもの権利が保障されるよう、「運営指針」の具体化を当事者と行政でめざしましょう

・1章-3 <学童保育・育成支援の目的>

「子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全な育成を図ることを目的とする。

・4章-1 <職員体制>

「年齢や発達の状況が異なる子どもを同時にかつ継続的に育成支援を行う必要があること、安全面での管理が必要であること等から」… ◎1クラス2人以上の資格者を必置（1人以外は無資格者でもよい）、

◎子どもとの安定的・継続的な関りが重要なため、長期的に安定した雇用形態が求められる、

◎子どもの受入れ準備や打合せ、育成支援の記録作成等に必要時間を前提にした勤務時間の設定を。

- ・改定で追加。「子どもの権利を大人が学び、子どもが学童保育の生活を通して自身の権利を理解できるようにすること」や、指導員等は「こどもが気持ちや意見を表現できるようにし、それを受けとめる体制を整える」「ルールやあそびや生活は、子どもと指導員が共に考えて決める」などを追記。

◇学童保育ニーズは増加中。施設環境・指導員体制、十分な整備をしてほしい

- 待機児童・入れない…【子どもの声】「落ちて悲しい」（入所抽選にはずれた2年生）、「（5年生で学童に行けず）夏休み等は暇を持て余し、精神的にしんどかったです。学童に行きたいー！と何度も言っていました」（4年生までの地域／保護者より）、「もとの学童に戻りたい…」（他校区の空きある学童に移動・送迎となった6年生）

●人数が多い・うるさいよー・専用室がなくて落ち着かない…大規模・つめこみ・タイムシェアの施設問題

- ・人数基準は「1クラスおおむね40人以下」。しかし府内の45.7%（1897のうち867単位）は41人以上。50人・60人・70人の所も。大規模は、様々な問題・ケガ・しんどさの要因になっています。
- ・国は「タイムシェア（一時的な部屋利用）」を推進。しかし実態は深刻。「継続的な専用室」が必要です

●国が、指導員の「常勤資格者を複数配置」する補助を創設！ 職員体制を安定化・強化し、ゆとりを

- ・国は、学童保育の運営の安定化、子どもに毎日同じ指導員が対応できるよう、常勤・複数配置を予算化
- ・課題山積の背景に、指導員が不足・続けられない問題。学童期の子どもを支える専門職の確立こそ

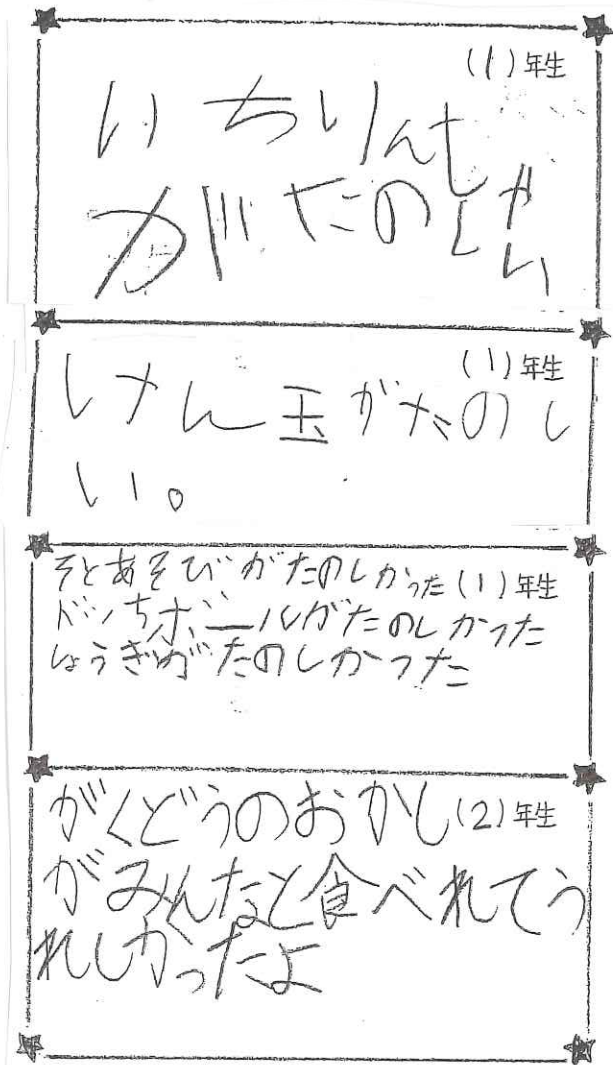
◇子どもの声が聴かれ、子ども自身が通いたい、保護者が安心な学童保育に

- 学童保育は「適正規模（40人以下）」で、「専用室」を確保し、必要なだけ整備を
 - 指導員が長く働き、よりよい保育ができるよう「常勤（フルタイム）資格者の複数配置」「研修充実」を
 - どれも大切な「学童保育」「放課後子ども教室」「居場所づくり事業」。
- でも、事業の目的・役割はちがいます。一体化や、代替利用にしないで、それぞれに必要な充実を
- 災害時が不安、トイレが少なく困る、夏休みに外遊びが少なくてしんどい⇒子どもの声を聴き、改善を

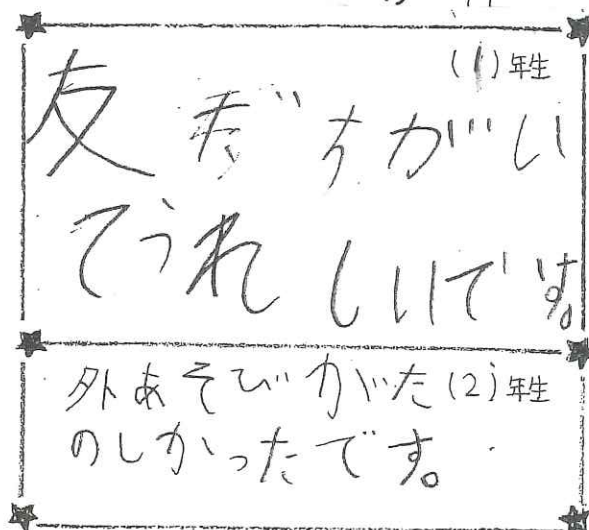
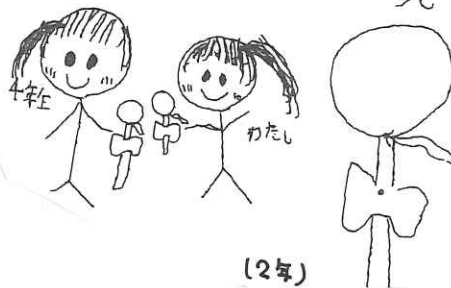
●子どもたちから…多くの声が聴かれました

【学童保育の良い所・続いてほしいところ】 あそべる、ゆっくりできる、友だちがいる、異年齢の仲間で育ちあえる・役割を發揮できる、けん玉や宿題など他の子が教えてくれる、指導員の先生が話をきいてくれる、おやつが楽しみ、行事（お化け屋敷・おまつり・卒所旅行）がある、ふだんの学童がいい」 など

【しんどい・イヤなところ・切実な声】 人数が多い（うるさい、宿題できない、仲間の名前がわからない、上の学年は我慢が多い）、もっと遊びたい・外遊びしたい（時間が短い）、夏休みがずっと部屋の中でしんどすぎる、大人にルールを勝手に決められる、高学年が楽しみな活動がしたい、施設がせまい、トイレの改修をしてほしい など

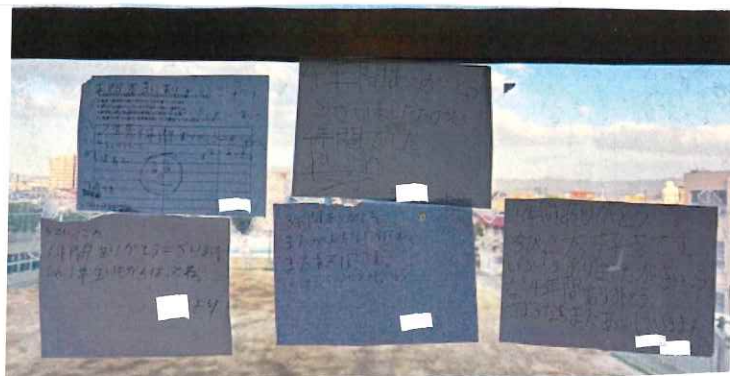


●4年生がけん玉をやりつづけるとかると言っていました。それをきいてわたしもそうおもいました。



●待機児童になった子の声

3月末、「私、来年から行かれへんねん」「一年のことなんて興味ないし」と子どもたちからさびしく、気持ちをゆがめたくくなるような想いが出されました。複数の待機児童が出た学童では「一年間、絶対はがさんとして」と手紙が貼られました。「〇年間ありがとう／みんなと遊べて楽しい思い出ができました／弟のことよろしく、新一年生もがんばってね／また顔出すよ、新一年生いつかあそぼうね／先生ありがとう／学童だいすきです、最高な〇年間ありがとう、またきます」。高学年が入れない地域もあります。学童保育に行きたくても行けない多くの子どもたちが大阪中にいます。学童保育の施設整備と指導員確保は、喫緊の課題です。



おおさかの学童保育

2026

ウェブ通信 1号

2026年9月24日

大阪府中央区

谷町7丁目2-2-202

TEL06-6763-4381

FAX06-6763-3593

大阪学童保育連絡協議会



第57回 2026年度

大阪学保協 定期総会

を、2026年4月29日に開催しました。

活動方針は裏面をご覧ください

教えて～
みんなの
夏休み
みんなで考えたい
学童保育での
過ごし方



学童はあそべる、友達がいてうれしい 施設がせまい、もっと外遊びしたい

子どもたちにとっては、最も楽しい夏休み。子どもたちからはたくさんの声。子どもたちの声を聴きあつての生活づくりの様子を地域から寄せてもらいました。

木かげ・日かげ・風の道さがし

朝の時間を外遊びの時間に変更し、2時間ほどの外遊びが実現。暑さとの付き合い方を子どもたちと話し合いながら、どこなら遊べるか考えました。「こっちは風があつて少し涼しいで」「昼間はなくなるけど朝はここが影やで」とあそべる場所を探します。泥だんごや泥あそび、サッカーに水遊びも。学校との連携で体育館が借りられ、走り回ることもできました！

吹田市では、暑さ指数を基準に外遊びを取り入れています。指数計を子どもの頭の位置に設置し、10分ごとに水分補給と休憩を入れます。(吹田市指導員)

子どもたちに 楽しい日々を！

夏休みに保護者会主催でランチ会やピザパーティ、かき氷などを企画。「子どもたちは本当に楽しんでいるかな？」「子どもにとって保護者会って」と改めて考える機会になりました。参加するうちに、子どもたちが「〇〇のお母さ～ん」と呼んでくれたり、頼りにしてくれたり。「行事」だけでなく、「自分を知ってくれてる大人」がたくさんいることが求められてるのではないかと感じるようになりました。保護者の仲間、積極的に呼びかけたいと思います。(A市保護者)

異学年の友だち！

部屋遊びにけん玉。どっぶりハマった娘は、けん玉を家に持って帰り練習し、旅行にまで持っていくほどに。夏休みは子どもどうし関わる時間も長く、同学年だけでなく“違う学年の子の名前”が出てくるようになりました。「今日は折り紙教えてもらった！」「知らんことも教えてもらったで！」ときくとうれしくて！“異年齢の中での育ち”を感じています。

(N市保護者)

週1レトルト！楽しいで～

毎年話題になる、長期休みの昼食問題。宅配弁当は好き嫌いもあつて、なかなかむずかしい…。うちの学童では、週2回ご飯持参のレトルトの日(カレーや丼など湯煎でできるもの)、カップ麺の日(袋を破って名前を書く)があります。指導員さんには少し手間をかけますが、子どもたちにはちょっと手作り感も味わえて、「次これにしよう！」と、楽しみにしています。親も助かってます～(D市保護者)

子どもの世界を楽しんで！

昼間の暑～い時間、子どもたちが「じょうろ」に水をためて運動場の真ん中に持っていきました。「なにしてるん？」と聞くと、「沸騰するかな？」と。みんなで笑い合いました。また、夕方の日かげさがしでは、8月お盆を過ぎると「日かげが長くなったね～」と、季節の変化を感じる生活に。保護者会があることで食事作りができます。「人参、玉ねぎ、じゃがいも、肉」を使って、子どもたちが相談。豚汁、シチュー、ポトフなど。「みんなでつくるとおいしい！」と、改めてこんな生活が大切なんだな～と感じた夏でした。(E市指導員)

めざしていること

必要とするすべての子どもが入所でき

安心・安全で、子ども自身が通いたいと思う学童保育の充実・発展を

方針の4つの重点視点

- ①子どもの声が聴かれ、子どもの最善の利益が保障されるよう、子どもとともにつくる学童保育・子ども施策をめざします。(声＝声なき声・願い・感じ方 など含む)
- ②子どもにとって放課後や長期休みの生活・育ちあいの大切さを確かめ、ホッとしたり、遊んだり、自由にのんびりできる＜時間・空間・仲間＞のある生活づくりをめざします。
- ③「設備・運営の基準」を守り、「放課後児童クラブ運営指針」をふまえた学童保育の実現をめざします。
 ☆専用室・生活環境（トイレ・遊び場など）の整備
 ☆正規職員の配置／（8時間程度のフルタイムの）常勤・専任・複数の職員体制の確立と資質向上
 ☆緊急時・災害時を想定した制度・内容づくりの推進・向上を特に求めます。
- ④子どもにとって、よりよい環境・幸せな子ども時代を広げるために、ゆるやかにつながり、いっしょに育て支えあう豊かな保護者会・指導員組織・連絡協議会づくりをめざします。

保護者会・学童保育連絡協議会は

子どもたちや子育て仲間を守りあうための会です。子どもや大人の困りごと、うれしいこと（続けてほしいこと）などを出しあい、「どの子どもも入所でき、通いたい学童保育づくり」のために各地で作られています。一言で言えば、「わが子・子どもたちの応援団」。

- ①学童保育ごとの「保護者会」
- ②市町村内の保護者会で集まる「市の学童保育連絡協議会」
- ③府内でつながる「大阪学童保育連絡協議会」
- ④都道府県でつながる「全国学童保育連絡協議会」があり、この4つがゆるやかにつながり情報共有をしていることで、学童保育の内容や制度が長年にわたり発展してきました。学童保育連絡協議会は、学保連、学保協、連協などと略して呼ばれています。

保護者会・父母会ってなあに？

簡単なチラシにまとめています。ぜひご覧ください。



2026年度の活動方針

子どもの声が聴かれ、子どもが通いたい学童保育に

「安心して働きたい」「子どもに笑顔で豊かな放課後生活を過ごしてほしい」。学童保育は、働く保護者の願いで生まれ、子ども・保護者・指導員・地域の協同で発展してきました。大阪学童保育連絡協議会（大阪学保協）では、第57回定期総会を2026年4月29日に開催しました。今年度もどうぞよろしく願います。

大阪学保協会長 松林高志

学保協の指導員研修

1学期の講座2テーマ

- ①子どもの「ねえねえ」に応える
～生活づくりと指導員チーム：全4回
- ②どの子ども大切にされる学童保育
～障がいをもつ子どもとともに：全3回

<参加者の声>

・具体的な子どもの姿から「本当のねがい」を見つけ、実践を繰り返していくこと、また、「子どもの育ちをどう支えるか」を軸にして実践していくこと、とても学び深かったです。

・障がいをもつ子どもの保育計画を立てる際に、大切にしてきたことは、子ども理解と保護者理解です。それぞれの特性も性格も違う子どもたち—他の方の実践も聞かせてもらい、今回の学びと交流は、とても大切だと実感しています。

2学期の講座テーマは「集団づくり」

ボン・ソビアからの挑戦状

問題！

ティラノサウルスのような恐竜の名前によく使われている「サウルス」の意味は何でしょう？

「所属・住所・お名前・答え」を記載して学保協にご応募ください。正解者の中から抽選で図書カードプレゼント！
 〆切 10/30



平和がいいね

ぼつくうごうがこわくて楽しかった。てんじひんをいっぱい見た。せんそうについて勉強した。まあ、楽しかった。
 電車で（CMの）歌をうたった。帰りの電車でせんそうの本を読んだ。かわいそうだった。
 ぼつくうごうの音がちよつとこわかった。せんそうに生まれてこなくてよかったと、あらためて思った。
 ばくだんとかめつちやでかかった。ちよつとこわかった。



大阪学童保育連絡協議会は、第57回定期総会で「平和アピール」を決議しました。